

令和7（2025）年度 中部環境パートナーシップオフィス運営業務 年間報告書

■ 概要版 ■

※掲載したデータは全て2026年3月18日時点集計。

■ 令和7年度業務実施計画の作成

- 令和7年度業務実施計画等を作成し、EPO 中部ウェブサイト及び中部地方 ESD 活動支援センターウェブサイトに掲載・公開した。掲載 URL: <https://www.epo-chubu.jp/about/target>

■ EPO 中部・中部 ESD 支援センター運営委員会の設置・開催

- 下記の通り、2回の会議を開催し、EPO 業務・ESD 業務について意見交換及び諮問を行った。

会議		開催日	主な議事等
EPO 中部・中部 ESD 支援センター運営委員会	第1回会議	5月28日 オンライン	運営委員会設置要領について／令和7年度業務実施計画について／EPO・ESD 業務の事務局案について
	第2回会議	2月19日 オンライン	令和7年度に実施した EPO・ESD 業務について

■ 基本業務

■ ホームページの更新及び維持管理

ウェブサイト	URL	年間更新回数・計	年間アクセス数(ページビュー数) 単位:件				
			2025年度	2024年度	2023年度	2022年度	2021年度
EPO 中部	http://www.epo-chubu.jp	1,064回	31,857	28,956	32,143	31,134	32,185
中部地方 ESD 活動支援センター	https://chubu.esdcenter.jp	440回	9,019	7,826	11,947	10,948	13,575

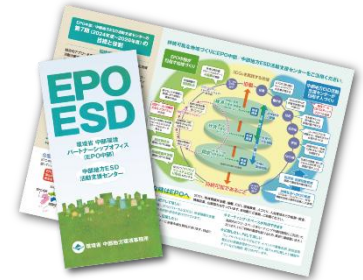
■ 収集・整理・蓄積した情報の発信

- 毎月1回メールマガジンを発行し、配信済みのバックナンバーを EPO 中部ウェブサイトに掲載した。
(<https://www.epo-chubu.jp/mail-magazine>)

	年間配信記事数・計	今年度配信したメルマガ記事数					
		冒頭部 (EPO 関係記事等)	環境省 関連	イベント 関連	ツール・コンテ ンツ	助成金・ 表彰等	その他
2025年度に配信したメルマガ (毎月第2火曜日発行)	652	42	144	264	38	137	27

■ リーフレットの発行・配布

- EPO 中部／中部地方 ESD 活動支援センターのリーフレット(第7期版)を、主催イベントや打合せなどで約 700 部を配布した。



■ 照会・相談対応（年間合計件数）

相談に対し支援対 応を行った案件 の事例件数※1	照会・相談対応等 の延べ件数	照会・相談対応				メール・電話に よる相談(広報 依頼等)延べ件 数※2	対話の体制の構築		照会・相談 対応の延べ 件数 + 対話の体制 の構築件数
		来館件数 延べ 件数	資料配架依 頼等	相談・照会、 相談	会議利用		地域活動への招聘 会議・セミナー等	換等 域主体との意見交 渉	
44	212	77	45	33	135	19	117	348	

※1) 事例件数: 最初の連絡から対応終了までの(その間の連絡・打合せ等を含めた)案件ごとにカウントした数。

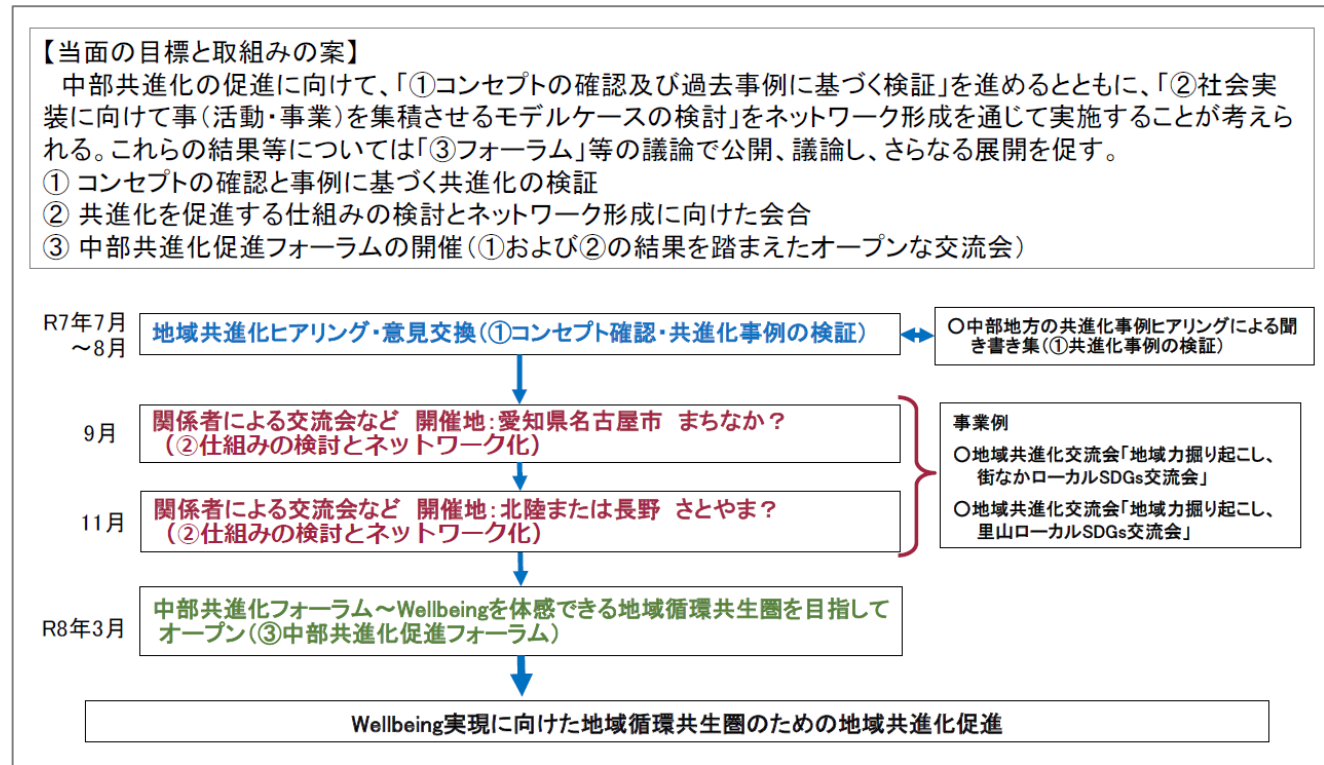
※2) 延べ件数: 同じ案件・用件であっても、来館、メール・電話等の接触回数等を個別にカウントした数。

■ 施設・設備の維持管理（年間施設利用件数）

業務実施日数	開館日数	来館者数	来館件数	メール・電話による 問合せ件数
244日	229日	139人	77件	135件

■ グリーン社会の実現に向けたステークホルダー連携促進業務

今年度の実施内容



地域共進化ヒアリング・意見交換会

- 8名の有識者を対象に、<過去の事例を踏まえて、俯瞰的に共進化を捉えて><地方行政と市民の関わり、合意形成の視座から><市民として、生活者としての視座から><企業活動、地域づくりにおける行動合理性の視座から>をテーマにヒアリングを実施。

▼▼▼ヒアリング結果をもとに各企画を立案▼▼▼

実施会合・イベント	開催地	設営	開催日	参加者数	プログラム等
地域共進化・まちなかローカルSDGs交流会	愛知県名古屋市	リアル	11月27日	8人 クローズド会合	<ul style="list-style-type: none"> 趣旨説明: 地域から始める共進化の意義 話題提供 1: まちなかにおける共進化の可能性と広がり 話題提供 2: 現場からの声:暮らし・なりわい・まちづくりの挑戦 ディスカッション: 実践者のつながり・共進化で Wellbeing な地域をどう育むか
地域共進化・さとやまローカルSDGs交流会	長野県長野市	リアル	12月15日	6人 クローズド会合	<ul style="list-style-type: none"> オープニング/趣旨説明 地域から始める共進化の意義 話題提供 1: さとやまにおける共進化の可能性と広がり 話題提供 2: 現場からの声:暮らし・なりわい・さとづくりの挑戦 ディスカッション: 実践者のつながり・共進化で Wellbeing な地域をどう育むか
中部「共進化」フォーラム ～ウェルビーイングを体感できる地域循環共生圏を目指して～	愛知県名古屋市	ハイブリッド/アーカイブ	3月3日	83名 (会場31、zoom52)	<ul style="list-style-type: none"> 趣旨説明・経緯説明: 地域から始める共進化の意義 基調講演「環境基本計画における共進化」 話題提供 現場からの声:暮らし・なりわい・地域づくりの挑戦 パネルディスカッション: ウェルビーイングのための共進化とは ▶ アーカイブ配信: https://www.epo-chubu.jp/epo-news/35796.html

※出席者は事務局(中部地方環境事務所、EPO)を除いた人数(以下、同じ)。



まちなかローカル SDGs 交流会



さとやまローカル SDGs 交流会



中部「共進化」フォーラム

■協働取組の促進のための業務

■ 2025年度のEPO中部主催イベント・会合等

開催・実施事項	開催地	設営	開催日	参加者	実施内容等
地域循環共生圏づくり支援セミナー2025 「ローカルSDGsの実践とその中間支援～地域循環共生圏づくりに必要なこと・大切なこと～」	愛知県名古屋市	オンライン／アーカイブ	12月5日	ライブ時点 25人	<ul style="list-style-type: none"> 【基調講演】地域循環共生圏づくりにおける中間支援とは：島岡 未来子 氏（早稲田大学リサーチ・イノベーション・センター 教授／神奈川県立保健福祉大学ヘルスイノベーション研究科 教授） 【取組紹介】地域の財産“情報”を活かす中間支援の取組：吉田 喜美夫 氏（認定特定非営利活動法人長野県 NPO センター コーディネーター） 【トークセッション】地域循環共生圏づくりに必要とされている中間支援とは ▶アーカイブ配信：https://www.epo-chubu.jp/epo-news/34087.html
地域循環共生圏フォーラム in 富山県上市町 2025 「地域課題を地域資源にするローカルSDGsの共創へ」	富山県上市町	リアル	12月6日	12人	<ul style="list-style-type: none"> はじめに：昨年度開催したフォーラムをふりかえって：塚勇人 さん（一般社団法人環境市民プラットフォームとやま 常務理事/事務局長） 先進事例の紹介：クラフトジンで能登の魅力発信：松田行正 さん（NTG代表） 実践報告：放置された柿の活用：高井昭博さん（かみいち柿取物語 代表／かみいちラジオ「カミラジ！」局長） ディスカッション：上市ローカルSDGs共創ワークショップ
ローカルSDGs実践事例集（協働コーディネーター取組事例集）の制作・公開	—	オンライン収録	3月11日収録	—	<ul style="list-style-type: none"> 長野県 NPO センター 吉田氏、ローカルSDクリエイション 三田村氏（及び活動団体：エコグリーンツーリズム水のしりらやま 森氏）、NPO わおん 山田氏の3名の協働コーディネーターの取組紹介動画を収録 おまけのQ&A&おしゃべりコーナーと題して質疑応答タイムも収録 ▶掲載 URL：https://www.epo-chubu.jp/tool/coordinateur
協働コーディネーター意見交換会	愛知県名古屋市	リアル	9月3日	9人 クローズド 会合	<ul style="list-style-type: none"> 話題提供：中部事務所、(共生圏事業)丹南・長野、(EPO 共催共生圏フォーラム)PEC とやま・塚氏、ティー・ツリー・コミュニケーションズ・茶木氏 地域活動の課題感共有ディスカッション など

①地域循環共生圏づくり支援セミナー（2025年度：中間支援編）

- 12月5日に「地域循環共生圏づくり支援セミナー2025」を開催・配信。Zoom参加・YouTube自由視聴合わせて32人視聴（2025年12月末現在）。
- 早稲田大学教授・島岡未来子先生、共生圏事業の中間支援主体・長野県NPOセンター吉田氏による講演のほか、登壇講師と④活動評価手法検討WGメンバーによるトークセッションを実施。
- 録画をアーカイブ公開中。
<https://www.epo-chubu.jp/news/34087.html> トークセッションは冊子としてとりまとめ（作成中）。

2024年度の「地域循環共生圏づくり入門編」、今年度の「中間支援編」を開催。次年度は「総括編」としての開催を予定。

3カ年度の動画・冊子、取組主体に活用してもらうツールとして公開。



②共生圏づくり支援：富山県上市町におけるローカルSDGs展開支援

- 12月6日に地域循環共生圏フォーラムin富山県上市町2025を昨年度に続き、第3回目を開催。
- 「かみいち柿取物語」プロジェクトリーダーである高井氏が、柿の収穫体験イベントの実施報告、今後の計画などを発表。
- 昨年度から中間支援の立場で、協働コーディネーターのPECとやま・塚氏が協力。また、本フォーラムでも総会司会、昨年度までの振り返りでも登壇。
- そのほか、ローカルSDGs実践の先進事例として、能登で放置されていた柿を活用したクラフトジンづくりに取り組むNTG代表・松田氏が講演。
- 後半ディスカッションでは、上市におけるローカルSDGsのアイデアやその実現・実践に必要な共創、情報、仕組み、支援は何かを登壇者・参加者で話し合った。



③ローカルSDGs実践事例集（協働コーディネーター取組事例集）

協働コーディネーターによるローカルSDGsの実践・支援の事例集コンテンツを作成・公開

- 協働コーディネーターの取組紹介ツールの最新版・事例紹介コンテンツとして、協働コーディネーターによるローカルSDGs（地域循環共生圏づくり）及びその中間支援、地域課題解決、地域資源活用等）取組事例のオンライン登壇動画を収録し、EPO中部ウェブサイトに掲載。
- 今年度は3名の協働コーディネーターが取組紹介の協力（うち2名は共生圏事業選定事例の紹介）。
- 次年度以降に、ウェブサイト上で「協働コーディネーター・中間支援」の専用コーナーを新設し、取組事例集を公開するとともに、協働コーディネーター、共生圏事業の中間支援主体に対する相談、照会・紹介の受付可能なページを作成予定。
- ▶共生圏事業が目指す中間支援の3コ段階への支援として、「地域循環共生圏づくりとその中間支援」協働コーディネーターの認知度向上広報も必要。



④協働コーディネーター意見交換会

- 9月3日に、EPO中部・協働コーディネーター9名が集まり、意見交換会を開催。うち1名は、新しく協働コーディネーターに加わった方で、ほかのもう1名の推薦のあった新コーディネーター（今回の会合には参加できず）の紹介が行われた。
- 会合で、各コーディネーターによる取組の近況報告や、共生圏事業の中間支援を行っている協働コーディネーターが事業での取組紹介も行った。
- 意見交換では、行政との連携における課題感について多くの意見が提示された。



プログラム	時間	内容
1 近況報告／新しい協働コーディネーターさんの紹介	4分 0:00-0:04	【新】協働コーディネーターからの報告など 【新】新しい協働コーディネーターさんのご紹介：谷崎さん
2 中部地方環境事務所からの情報提供（共有等）	19分	【新】環境調査、実地の紹介 【新】地域循環共生圏づくりにおける中間支援主体への期待 など
3 EPOとの関係事例 （話題提供1） 地域循環共生圏事業が、連携先とEPOの連携事例の紹介	21分 0:04-0:25	【三田村さん・吉田さん】地域循環共生圏事業による中間支援主体としての取組紹介 【吉田さん】後継の「きんぎょ」デジタル事業（2024）による取組の紹介 【おまけ】茶木さん】地域循環共生圏フォーラムin上市（2024）と今年度の会合
4 協働コーディネーターと環境先及びEPOとの関係事例 （話題提供2） EPO中部からお知らせ等	19分 0:26-0:45	EPO中部主催イベントのお知らせ、地域循環共生圏づくり支援セミナー、活動評価検討 など
5 休憩	10分	
6 上記1-4への質問タイム & 意見交換	10分	地域活動における課題感、課題解決方法、支援ニーズ 中部支店（中部支援センター）の方 【新】協働コーディネーターの経歴・経歴 など

終了後 16:15～事務局は撤収作業、その際、協働コーディネーターの皆さんは意見交換の続きのフリートークタイム 16:45開始 懇話会会場へ移動

地域循環共生圏への貢献についてのフィードバック（活動評価手法の検討）

- 活動評価手法検討ワーキングを3回実施し、地域循環共生圏づくりの活動評価のあり方について検討を行った。

催事名	開催地	設営	開催日	出席者	実施内容等
活動評価手法検討ワーキング（全3回）	EPO 中部 （愛知県名古屋市）	リアル	6月2日	委員3名 クローズド会合	<ul style="list-style-type: none"> 活動評価の枠組みなど昨年度の成果について 中間支援活動の評価について ローカル SDGs 活動の評価の実践について
	富山県富山市	リアル	7月23日		<ul style="list-style-type: none"> これまでの検討会の議論と GEOC との議論の紹介 中間支援活動の評価手法の枠組みと実践のありかたについて
	EPO 中部 （愛知県名古屋市）	リアル	12月4日		<ul style="list-style-type: none"> 6つの資本に基づくローカルSDGs活動の評価の実践について 6つの資本に基づくローカル SDGs 活動の評価の実践の実績 地域循環共生圏づくりに必要とされる中間支援について 中間支援活動の評価手法の枠組みと実践のありかたについて

中間支援組織の機能評価リストの提案 「打ち手」のチェック【インプット評価】

「協働ガバナンスモデル」を用いて、対象プロジェクト推進時の協働プロセスにおいて、活動団体のプラットフォームに対して「打ち手」として「チェンジエージェント機能」が発揮できているかの評価を検討

支援分野	内容例	チェンジエージェント機能
喚起	情報発信、普及啓発、相談、助言等によるやる気等「喚起」の支援ができていくか	変革促進
関係構築	交流やマッチングなどによる「関係構築」の支援ができていくか	プロセス支援
定義づけ・診断	活動内容や状況を評価することによる「定義づけ・診断」の支援ができていくか	資源連結
資源調査	ヒアリング、WS、相談、助言等により「人も金と」等の「資源調査」の支援ができていくか	問題解決提示
課題解決・応用	WS、相談、助言等による「問題解決・応用」の支援ができていくか	

出典：企業・行政・NPO間の協働における中間支援組織の役割と機能 - 川崎市産業・環境創造リサーチセンターを事例として（高岡、佐藤 2014）

ローカルSDGs活動に関する評価チェックリストの活用とフィードバック

3件の事例について分析、SDGs学生サミットで活用

- 富山県上市町 里山の駅つぎの味蔵の純産物メンマプロジェクト
- 愛知県岡崎市 「QRUJWA戦略」自治会の連合体が支える公民連携まちづくり
- 福井県小浜市 若狭コピプロジェクト

- 活動評価検討ワーキングの検討結果として「取組評価チェックリスト」を2事例で試行し、そのアウトプットを各取組主体にフィードバックするとともに、2月7日開催の「SDGs 学生サミット」で紹介・公開した。

その取組は地域循環共生圏に貢献する資本増加に繋がるのか、評価チェックリスト（試行） 作成 260128

テーマ	「QRUJWA 戦略」自治会の連合体が支える公民連携まちづくり	概要	地域の課題解決と自主事業を中心とした収益事業を行い、さらに再投資し、持続可能なまちづくりを展開
活動状況	愛知県岡崎市の QRUJWA エリアを拠点に、「QRUJWA 7町」広域連合を 資財的命と巧みから派生して 2022 年 11 月に設立。地域の知識・情報・ネットワークを活用し、行政や企業と連携し、地域内外の多世代の仲間とともに活動している。地域の課題解決と自主事業を中心とした収益事業を行い、さらに再投資し、持続可能なまちづくりを展開。エリアとそこで暮らす人々を思い、地域に根付き、常に自らもアップデートし続ける地域のみならずから愛をもち活動中		
六つの資本	評価項目	チェック	チェックの判断理由
1 財務資本 (地域循環 財務資本) 地域内での経済循環になっているか	● 地域にお金を落とすようになっているか ● 地域への投資になっているか その他(地域所得の増加に貢献しているか)	○	事業者の増加、関係人口の増加で商業化で域内経済の活性化、域外資本の流入に貢献 地域の魅力の内外に発信によるブランド化、物産やイベントによる域内経済の活性化
2 製造資本 (地域循環 生産・製造資本) 地域資源・エネルギーが持続可能な形で使えるようになっているか	● 資源循環を目指しているか ● 再生可能エネルギーを使おうとしているか ● 防災・減災に役立つか その他(建築物、設備の整備)	○	空き家物件の活用により物質循環に貢献 再生可能エネルギーを使おうとしているか 防災・減災に役立つか 空き物件の活用など地域の活性化、活性化に貢献
3 知的資本 (地域共生 知的資本)：地域の文化、知恵などが生かされているのか、水準の高い知見が用いられているか	● 様々な場面で教育を進めようとしているか ● 住民自治を取り入れようとしているか ● 伝統的文化・知恵を活用しようとしているか ● 高等知見の導入をしようとしているか ● ICT 活用を進めようとしているか その他()	○	自治会、行政を始めとした様々なステークホルダーを地域課題課題の立場で連携、市民の社会教育の場として機能 住民自治を取り入れようとしているか 伝統的文化・知恵を活用しようとしているか 高等知見の導入をしようとしているか ICT 活用を進めようとしているか
4 人的資本 (地域共生 人的資本)：地域の多様な人々が共生できているか	● 主体的・意欲的な人がいるか ● 愛着・誇り・責任感のある人がいるか ● 包摂社会を目指しているか その他()	○	地域の魅力を内外に発信するとともに、ふるさとへの誇りと愛着を育む 包摂社会を目指しているか
5 社会関係資本 (地域共生 社会関係資本)：地域の繋がりがコミュニティづくりにつながっているか	● 対話型の議論・交流を作ろうとしているか ● 相互信頼を醸成しようとしているか ● 公正さに重きを置いているか ● 共働きを取り入れようとしているか その他()	○	自治会、行政を始めとした様々なステークホルダーを地域課題課題の立場で連携 相互信頼を醸成しようとしているか 公正さに重きを置いているか 地域住民のコミュニケーションの場づくりで地域レジリエンスに貢献、高齢者の健康作りなど福祉機能の向上に貢献
6 自然資本 (地域循環共生 自然資本)：地域の自然・生物多様性が守られているか	● 生物多様性を守ろうとしているか ● グリーンインフラ・景観の向上に配慮しているか ● 防災を推進しようとしているか ● 自然資源の保全活用を進めようとしているか ● 農地・漁場を持続可能な形で使おうとしているか その他()	○	自然資源の保全活用を進めようとしているか 農地・漁場を持続可能な形で使おうとしているか
ローカル SDGs 活動としての総合評価	地域の課題解決の貢献し 6 つの資本すべてについて増加させる機能を果たしている。プロジェクトとして地域循環共生圏構築に貢献していると評価できる。		

その取組は地域循環共生圏に貢献する資本増加に繋がるのか、評価チェックリスト 作成 260123

テーマ	若狭コピプロジェクト	概要	厄介なものとなっているアブラギリを有効活用し桐油の製品化を通じて地域の課題解決に貢献する協働取組を推進
活動状況	ニホンアブラギリは、トウダイグサ科の落葉高木であり、種子から桐油と呼ばれる価値のある油を搾取して塗料などに用いられていた。若狭地方では「コピ」と呼び、江戸時代から盛んに栽培され、全国一の生産量を誇っていた。昭和半ば頃の「燃料革命」を機に国内の桐油産量は激減。繁殖・成長力が早く野生化が進み、現代では生態の単一種生息などの環境問題の種格が危ぶられる。若狭地方一帯にこの状況が広がっていることから、この厄介なものとなっているアブラギリを有効活用し、桐油の製品化を通じて地域資源として地域の課題解決に貢献する協働取組を推進している。		
六つの資本	評価項目	チェック	チェックの判断理由
1 財務資本 (地域循環 財務資本) 地域内での経済循環になっているか	● 地域にお金を落とすようになっているか ● 地域への投資になっているか その他(新産業の萌芽)	○	取組の確立による地域の桐油桐油産物の育成 生産体制の構築を通じて生き生きとした経済の活性化、外部からの資本流入が期待できる 地域の新しい産業の芽が生まれた
2 製造資本 (地域循環 生産・製造資本) 地域資源・エネルギーが持続可能な形で使えるようになっているか	● 資源循環を目指しているか ● 再生可能エネルギーを使おうとしているか ● 防災・減災に役立つか その他(新産業の萌芽)	○	桐油桐油産物による物質循環の構築 再生可能エネルギーを使おうとしているか 防災・減災に役立つか 地域の新しい産業の芽が生まれた
3 知的資本 (地域共生 知的資本)：地域の文化、知恵などが生かされているのか、水準の高い知見が用いられているか	● 様々な場面で教育を進めようとしているか ● 住民自治を取り入れようとしているか ● 伝統的文化・知恵を活用しようとしているか ● 高等知見の導入をしようとしているか ● ICT 活用を進めようとしているか その他()	○	文化財修理素材の国産化による文化の伝承 生産技術を確立する過程で様々な専門家の連携が生まれた
4 人的資本 (地域共生 人的資本)：地域の多様な人々が共生できているか	● 主体的・意欲的な人がいるか ● 愛着・誇り・責任感のある人がいるか ● 包摂社会を目指しているか その他()	○	福祉施設建設の雇用創出
5 社会関係資本 (地域共生 社会関係資本)：地域の繋がりがコミュニティづくりにつながっているか	● 対話型の議論・交流を作ろうとしているか ● 相互信頼を醸成しようとしているか ● 公正さに重きを置いているか ● 共働きを取り入れようとしているか その他()	○	生産技術を確立する過程で関係者の連携が生まれた
6 自然資本 (地域循環共生 自然資本)：地域の自然・生物多様性が守られているか	● 生物多様性を守ろうとしているか ● グリーンインフラ・景観の向上に配慮しているか ● 防災を推進しようとしているか ● 自然資源の保全活用を進めようとしているか ● 農地・漁場を持続可能な形で使おうとしているか その他()	○	アブラギリの活用を進める地域の里山環境の保全に貢献
ローカル SDGs 活動としての総合評価	地域の課題解決の貢献し 6 つの資本すべてについて増加させる機能を果たしている。プロジェクトとして地域循環共生圏構築に貢献していると評価できる。		

- ワーキングの有識者2名が「地域循環共生圏づくり支援セミナー2025」のトークセッションに登壇し、「ローカル SDGsの実践とその中間支援 ～地域循環共生圏づくりに必要なこと・大切なこと～」をテーマにディスカッションした記事をまとめた冊子を作成し、EPO 中部ウェブサイトにて公開した。掲載 URL: <https://www.epo-chubu.jp/epo-news/34087.html>



■ 地域循環共生圏の創造に資するための推進業務

■ 地域循環共生圏づくり支援体制構築事業

- 地域循環共生圏づくり支援体制構築事業に選定された3地域・6団体への支援として、実施計画打合せや、フォローシート(計3回)の作成、各団体が主催するステークホルダーミーティングへの同席などを行った。
- 11月に中部ブロックの中間共有会をEPO 中部主催で開催し、中部の参加団体(計6団体)による取組状況等の報告会を行った。

催事名	開催地	設営	開催日	参加者	実施内容等
中部ブロック中間共有会	愛知県半田市	リアル	11月13-14日	6団体・有識者計17名 クローズド会合	地域循環共生圏事業の活動状況と中間支援の実施状況等の中間報告会&エクスカーション

⑥ 地域循環共生圏事業選定団体への支援：中間共有会

- 11月13-14日に、地域循環共生圏事業の中部ブロック中間共有会を愛知県半田市で開催。3地域6団体等26名が出席。
- 3地域6団体による取組報告のほか、「(なりたいた地域の未来像ではなく)なりたくない地域の未来予想図とその回避宣言を考える」、「私たちの活動、或いは地域循環共生圏事業が地域にもたらすものとは？」をテーマにディスカッションを実施。
- 2日目は視察エクスカーションとして、半田市地域循環共生圏推進協議会の関係施設等を見学。



■ 身近な自然資本活用に関する意見交換会の開催

- 中部地方環境事務所が企画した次の催事をEPO中部が運営・開催支援を行った。

催事名	開催地	設営	時期	参加等	登壇者・実施内容等
SDGs AICHI EXPO ～SDGs 子ども・ユースフェア～ (2日間)	愛知県 常滑市	出展	10月 3-4日	—	<ul style="list-style-type: none"> ・ブース出展：パネル展示、クイズ・ゲーム、レンジャー服で記念撮影、だいだらぼギー(着ぐるみ) ・ワークショップ：「ヨシストローをつくろう！ヨシ刈り継続でネイチャーボジティブもヨシ！」
はくさん大発見！ ～白山の自然や動物を見て・さわって・学んで、自分だけの白山づくり体験～	石川県 金沢市	リアル	2月 23日	28人 (9組：子ども12、保護者等16)	<ul style="list-style-type: none"> ・はじめに「白山国立公園とは？」：環境省白山自然保護官事務所 ・ふれてみよう・さわってみよう「はくさんのひみつをふもとからてっぺんまで！」：環境省白山自然保護官事務所 ・ワークショップ「ペーパークラフトで自分だけのミニ白山をつくろう！」：EPO中部 ・おわりに「どんな白山ができたかな？」

⑧身近な自然資本の活用に関する意見交換会等

SDGs AICHI EXPOの出展ブース運営

- 10月3・4日に、愛知県常滑市で開催されたSDGs AICHI EXPOにて、中部地方環境事務所出展ブースの運営(2日間)とヨシストローづくりワークショップを実施。
- ブース内では、作成したパネル14点や生きものクイズなどを実施したほか、着ぐるみ「だいだらぼギー」(アルバイト学生による)を運営。



はくさん大発見！～白山の自然や動物を見て・さわって・学んで、自分だけの白山づくり体験～を開催

- 2月23日に、石川県金沢市の石川県立図書館で、白山国立公園の認知度・親しみ向上を目指し、子ども向けイベント「はくさん大発見！～白山の自然や動物を見て・さわって・学んで、自分だけの白山づくり体験～」を開催。
- 白山についての解説のほか、クイズ、ハンズオン展示のほか、ペーパークラフト・ワークショップ「自分だけのミニ白山をつくろう！」を実施。



2

■ 中部地方 ESD 活動支援センター業務

■ 多様な主体の連携促進、交流の機会の提供(学び合いプロジェクト)

- 中部エリアの学び合いプロジェクトとして、気候変動社会教育・社会への実装「学び合いの場の作り方」をテーマに、有識者検討会で企画検討を行った上で、学び合いの場(セミナー方式)計2回と、実践活動(1回)を実施した。


2025年度学び合いプロジェクト ワークブック活用展開・冊子と動画のブラッシュアップ	2025年度学び合いプロジェクト ワークショップ・SDGsの学びの場をつくる！
<p>・有識者検討会3回</p> <p>・学び合いの場2回</p> <p>・実践活動1回</p> <p>← 全国センターの気候変動ESD推進課題共有、方策検討作業部会への参加</p> <p>→ 全国フォーラム報告</p> <p>・冊子と動画の完成版の公開</p> <p>学び合いプロジェクト有識者検討会 古澤礼太 中部大学国際ESD・SDGsセンター准教授、中部ESD拠点協議会事務局長 水上聡子 EPO中部運営委員、アルマス・バイオコスモス研究所代表 堺 勇人 EPO中部運営委員、一般社団法人環境新技術プラットフォームとやま(PEC)とやま事務局長 原 理史 中部地方ESD活動支援センター、中部大学国際ESD/SDGsセンター研究員 【オブザーバー】環境省 中部地方環境事務所環境対策課 【事務局】清本三郎 EPO中部統括</p>	<p>目的：ローカルSDGsへの貢献観点での「学び合いの場づくり」の企画を学ぶ。 企画運営者のESDスキルアップを図ります。地球温暖化防止活動などの普及啓発や出前授業などで、気候変動教育としての機会を充実させるため、様々なESDとしての学び合いの場の企画運営スキルの向上を目指すワークショップを実施する。</p> <p>学び合いの場① 対象：eep「エポット」豊田市環境学習施設職員、 期日：2025年8月29日、19時～21時 期日：2025年7月18日 13:00～15:30 場所：愛知県豊田市 eep「豊田市環境学習施設」 主催：中部地方ESD活動支援センター 協力：豊田市環境対策課</p> <p>学び合いの場② 対象：地産市長(ざらコーポレーション内) 期日：2025年8月29日、19時～21時 場所：稲井農産物 主催：稲井農産物 共催：中部地方ESD活動支援センター 協力：アルマス・バイオコスモス研究所</p> <p>実践セミナー(実践活動) 対象：富山県教育委員会 社会教育主事等 期日：2025年11月25日PM 2時AM 場所：富山県 主催：中部地方ESD活動支援センター 協力：富山県教育委員会、富山県企画調整課、PECとやま</p> <p>ワークショップのミッション 気候変動教育などESD学び合いの場の企画書を作る</p> <p>プログラム案</p> <p>100 [アイスブレイク]自己紹介カード作り</p> <p>100 [インプット] 気候変動教育などESD学び合いの場の作り方について</p> <p>100 [ディスカッション] SDGsや気候変動をテーマの設定</p> <p>100 [ディスカッション]学び合いの場の形式検討</p> <p><休憩></p> <p>100 [ワーク]学び合いの場の企画書作り</p> <p>100 [ワーク]学び合いの場の企画書チェック</p> <p>100 [ワーク]企画書のブラッシュアップ</p> <p>100 [プレゼン]最終した内容を発表</p> <p>・右の用紙に記入し付箋を貼ったうえでESDの場の企画書を作成します。 ・全てで20分程度の時間を想定しています。</p> <p>・4～5人のグループについて行うことと希望しています。</p> <p>・中部地方ESD活動支援センターが作成した「ESD学び合いの場づくりワークブック」を教材として使います。</p> <p>教材「ESD学び合いの場づくりワークブック」</p>

学び合いの場①実施結果

目的: ローカルSDGsへの貢献観点での「学び合いの場づくり」の企画を学ぶ。「ESD学び合いの場づくりワークショップ」を教材とし、地球温暖化防止活動などの普及啓発や出前授業などで、気候変動教育としての機会を充実させるための、様々なESDとしての学び合いの場の企画運営スキルの向上を目指すワークショップを実施する。

対象: eco-T「エコット」豊田市環境学習施設職員、同インタープリターなど
参加: 合計21名
インタープリター 16名 4班
エコット職員 5名 1班

期日: 2025年7月18日 13:00~15:30
場所: 愛知県豊田市
eco-T豊田市環境学習施設2Fセミナールーム
主催: 中部地方ESD活動支援センター
協力: 豊田市環境政策課




中継項目	実施時間	実施内容	実施状況
1) 環境学習施設を学ぶこと	13:00-13:15	施設概要説明	完了
2) 学習される様々な内容を考えること	13:15-13:30	学習内容共有	完了
3) 自分自身で考えをまとめること	13:30-13:45	意見交換	完了
4) 最終的に計画を立てること	13:45-14:00	計画策定	完了
5) 互いに尊重して協力すること	14:00-14:15	相互理解	完了
6) 自分自身に思いを伝えること	14:15-14:30	発表準備	完了
7) 自己表現活動すること	14:30-14:45	発表活動	完了
8) 発表を聞き、相互理解を深めること	14:45-15:00	発表共有	完了
9) 発表を聞き、自分の発表や気持ちも発表すること	15:00-15:15	発表共有	完了
平均			

学び合いの場②実施結果

目的: ローカルSDGsへの貢献観点での「学び合いの場づくり」の企画を学ぶ。「ESD学び合いの場づくりワークショップ」を教材とし、地球温暖化防止活動などの普及啓発や出前授業などで、気候変動教育としての機会を充実させるための、様々なESDとしての学び合いの場の企画運営スキルの向上を目指すワークショップを実施する。(坂井市主催ゼロカーボンWS5回シリーズの1回)

対象: 地域市民 当日参加者ファン17名
期日: 2025年8月29日、19時~21時
場所: 福井県坂井市役所
主催: 福井県坂井市役所
共催: 中部地方ESD活動支援センター
協力: アルマス・バイオコスモス研究所



中継項目	実施時間	実施内容	実施状況
1) 環境学習施設を学ぶこと	19:00-19:15	施設概要説明	完了
2) 学習される様々な内容を考えること	19:15-19:30	学習内容共有	完了
3) 自分自身で考えをまとめること	19:30-19:45	意見交換	完了
4) 最終的に計画を立てること	19:45-20:00	計画策定	完了
5) 互いに尊重して協力すること	20:00-20:15	相互理解	完了
6) 自分自身に思いを伝えること	20:15-20:30	発表準備	完了
7) 自己表現活動すること	20:30-20:45	発表活動	完了
8) 発表を聞き、相互理解を深めること	20:45-21:00	発表共有	完了
9) 発表を聞き、自分の発表や気持ちも発表すること	21:00-21:15	発表共有	完了
平均			

第3回 戦略的にプランを考える(チームで取り組むプランの骨格とインセンティブを考える)
第1回、第2回を通して蓄積する内発的動機について、それはどのようなものか簡単に理論を学んだ上で、坂井市の総合計画が目指すwell-being8指標をあてはめて、「誰の、どんな幸せ実感」を目指したいのかをイメージできるようにする。一方、ESDとしての学び合いの場の意義を理解し、SDGsの理念をふまえたなら、どのようなアクションプランが現実的、効果的かを考え、いよいよプランの仕上げとなる第4回へと自信を高めて進めることができる。

実践セミナー(実践活動)実施結果

目的: ローカルSDGsへの貢献観点での「学び合いの場づくり」の企画を学ぶ。公民館で実施する生涯学習活動に、SDGsの視点を取り入れることで、持続可能な地域づくりと地域人材の育成につながるよう、公民館職員同士の学びあいの場を設ける。

公民館主事研修(ESDワークショップ)
対象: 富山市教育委員会社会教育主事等 54名
期日: 2025年11月25日PM, 26日AM
場所: 富山県富山市
主催: 中部地方ESD活動支援センター
協力: 富山市教育委員会、富山市企画調整課、PECとやま



中継項目	実施時間	実施内容	実施状況
1) 環境学習施設を学ぶこと	13:00-13:15	施設概要説明	完了
2) 学習される様々な内容を考えること	13:15-13:30	学習内容共有	完了
3) 自分自身で考えをまとめること	13:30-13:45	意見交換	完了
4) 最終的に計画を立てること	13:45-14:00	計画策定	完了
5) 互いに尊重して協力すること	14:00-14:15	相互理解	完了
6) 自分自身に思いを伝えること	14:15-14:30	発表準備	完了
7) 自己表現活動すること	14:30-14:45	発表活動	完了
8) 発表を聞き、相互理解を深めること	14:45-15:00	発表共有	完了
9) 発表を聞き、自分の発表や気持ちも発表すること	15:00-15:15	発表共有	完了
平均			

2025年度学び合いプロジェクト 地域づくりのためのSDGs・気候変動社会教育 ワークショップ・SDGsの学びの場をつくる! 波及効果の例: 学び合いの場①⇒市民⇒企業⇒消費者(珈琲)

成果例の概要: 学び合いの場①に参加した豊田市環境学習施設のインタープリターが、そこで作成した案を元に企画を具体化、企業と協力してESDイベントを実現した。

- ESD学び合いの場づくりワークショップ
 - 対象: eco-T「エコット」豊田市環境学習施設職員、同インタープリター、21名
 - 期日: 2025年7月18日 13:00~15:30
 - 場所: 愛知県豊田市 eco-T豊田市環境学習施設
 - 主催: 中部地方ESD活動支援センター
 - 協力: 豊田市環境政策課
- インタープリターが参加した企画づくりのワークショップ
 - 学び合いの場①
 - 対象: eco-T「エコット」豊田市環境学習施設職員、同インタープリター、21名
 - 期日: 2025年7月18日 13:00~15:30
 - 場所: 愛知県豊田市 eco-T豊田市環境学習施設
 - 主催: 中部地方ESD活動支援センター
 - 協力: 豊田市環境政策課
- インタープリター自ら企画して実現したESDイベント
 - 親子で学ぶ気候変動とサステイナブルな暮らし
 - 豊田市産業施設10/12日
 - 気候変動をフリップ8枚で説明
 - パックに日本産物の海外産物写真
 - 1回30分×3回、72名の参加
- 中部三木物産との協働
 - 企業
 - 消費者
 - 珈琲


冊子・動画の作成、公表・配布

- 有識者検討会のとりまとめ結果として、冊子(改訂版ワークショップ用ツール資料)と動画を作成し、ウェブサイトで公開した。掲載 URL: https://chubu.esdcenter.jp/category/02_centerproject/02-1_workbook

セミナーなどの企画運営者を育てる!

気候変動教育など・市民教育のためのESD学び合いの場づくり企画ワークショップ【やり方と解説】Vr.2

「ESD学び合いの場づくりワークショップ」を使って...



環境省EPO中部・中部地方ESD活動支援センター
学び合いプロジェクト有識者検討会(2026年3月)

公民館主事研修(2025年11月)で実践した動画を公開しています。

▼ワークショップパッケージ説明動画はこちらから

公民館主事研修での実践動画(2025年) 公民館主事研修での市民教育のためのESD学び合いの場づくり企画ワークショップ【やり方と解説】Vr.2

「ESD学び合いの場づくりワークショップ」を使って...



見る YouTube

環境省EPO中部・中部地方ESD活動支援センター
学び合いプロジェクト有識者検討会(2026年3月)

学校における気候変動教育プログラムの実証事業

- 気候変動教育プログラムを今後、実施可能と想定される高校として、名古屋市立桜台高等学校、岐阜県立斐太高等学校、愛知県立愛知商業高等学校、中部大学中部第一高等学校の計4校に、探究学習への取組状況や課題、企業や地域との連携状況などについてヒアリングを実施した。
- 関連する研修・会議等として、「教職員等環境教育・ESD 推進リーダー養成研修」や、全国センターが進める「学校における気候変動教育のプログラムの実証事業」関連の授業(計2回)にオンライン参加で立ち会った。

中部地方 ESD 活動支援センター主催イベント・会合等

催事名	開催地	設営	時期	参加者	内容
中部地方 ESD 推進ネットワーク地域フォーラム	愛知県 名古屋市	ハイブリッド	9月 29日	33人 (会場13、 zoom20)	<ul style="list-style-type: none"> テーマ:ESD:探究学習と地域連携 基調講演「ESDとしての探究学習の可能性と課題」 話題提供①高校の探究学習事例:名古屋市立桜台高等学校 話題提供②高校の探究学習事例:岐阜県立斐太高等学校 話題提供③探究学習の地域連携事例:NPO 法人まちづくりスポットとやま 地域 ESD 拠点参加者による活動紹介 交流ディスカッション
ESD ダイアログ2025 山と水と人間と ~南紀からのESD発信~	三重県 尾鷲市	リアル／ アーカイブ	10月 17日- 18日	56人 (会場50、 YouTube ライブ配信6)	<ul style="list-style-type: none"> インプット①「南紀地方と吉野熊野国立公園 ~自然の保全と活用~」 インプット②「尾鷲市のネイチャーポジティブと地方創生」 基調講演「自然資産を学びに活かす ESD と地域づくり」 ESD の取組~中部地方のネットワークを通じて:①尾鷲市の ESD 取組、②地域の ESD 取組 パネルディスカッション ▶ アーカイブ配信: https://chubu.esdcenter.jp/hot_topics/esddialogue20251017-1018-youtube
SDGs学生サミット	—	オンライン配信／ アーカイブ	2月 7日	73人 (学生47、その他登壇者8、ライブ配信視聴18)	<ul style="list-style-type: none"> 団体発表「ユースと地域が連携するローカル SDGs」 〈高校生生の部〉愛知県立愛知商業高等学校、中部大学第一高等学校、岐阜県立斐太高等学校 〈大学生生の部〉岐阜大学 環境サークル G-amet、中部大学 ESD エコマネージャー、金沢星稜大学 新ゼミナール 話題提供「地域の SDGs の取組~地域社会における SDGs の取組~」:純国産メンマプロジェクト(富山県上市町)、QURUWA のまちづくりプロジェクト(愛知県岡崎市)、アブラギリ再活用プロジェクト(福井県小浜市) ディスカッション:ローカル SDGs のために。連携して協働取組を進めよう! ▶ アーカイブ配信: https://chubu.esdcenter.jp/hot_topics/260207sdgs-summit

自然資産を活かしたESDダイアログ2025 (10/17、18)

第7期(令和6年度~8年度)共通テーマ:山と水と人間と 主催:中部地方ESD活動支援センター

ESDダイアログ2025 山と水と人間と ~南紀からのESD発信~<吉野熊野国立公園指定90周年を機会に>

【主催】中部地方ESD活動支援センター(環境省EPO中部)
【後援】尾鷲市 尾鷲市教育委員会 三重県立尾鷲市立総合センター
【開催期間】2025年10月17日(金)~18日(土)

1日目午後ESDダイアログ(オンライン併用) 参加56名
プログラム
開催者挨拶 加藤千津(尾鷲市長)
主催者挨拶 環境省中部地方環境事務所環境対策課
第1部 自然資産とESD
インプット①「南紀地方と吉野熊野国立公園~自然の保全と活用~」
根木 龍氏 吉野熊野国立公園管理事務所国立公園管理官
インプット②「尾鷲市のネイチャーポジティブと地方創生」
芝山 有樹氏 尾鷲市水産農林課長
基調講演「自然資産を学びに活かすESDと地域づくり」
水谷 瑞希氏 尾鷲市立総合センター長
第2部 ESDの取組~中部地方のネットワークを通じて
①尾鷲市のESD取組
尾鷲市立総合センター「ふるさとキャリア学習」
三重県立尾鷲高等学校「ITと地域課題(尾鷲甘夏)を連動させた解決方法」
②他地域のESD取組
大西 かり氏 NPO法人大杉谷自然学校校長
大坪 瑞穂氏 豊田自然観察の森「よとの自然パートナーズ」所長
第3部 ハネルイノベーション
辰巳 知之氏 吉野熊野国立公園管理事務所国立公園利用企画官
大西 かり氏 NPO法人大杉谷自然学校校長
大坪 瑞穂氏 豊田自然観察の森「よとの自然パートナーズ」所長
宮本 秀男氏 三重県立尾鷲市立総合センター長
渡邊 史次氏 尾鷲市教育委員会教育総務課課長
芝山 有樹氏 尾鷲市水産農林課長
藤田 一多氏 尾鷲市立総合センター長
コーディネーター 水谷 瑞希氏 尾鷲市立総合センター長



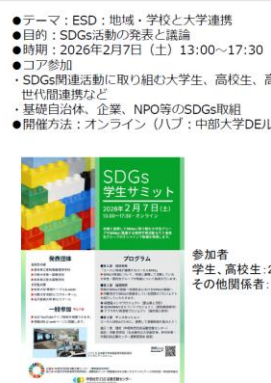
2日目午前~午後エクスカーション 参加19名
みんなの森⇒丸鬼町の伝統漁村⇒
おわせおいちば おとと⇒尾鷲市水産工場



14

SDGs学生サミット (2/7開催)

●テーマ:ESD:地域・学校と大学連携
●目的:SDGs活動の発表と議論
●時期:2026年2月7日(土)13:00~17:30
●コア参加
●SDGs関連活動に取り組む大学生、高校生、高大連携、世代間連携など
●基礎自治体、企業、NPO等のSDGs取組
●開催方法:オンライン(ハブ:中部大学DEJURM)



参加者
学生、高校生:27名
その他関係者:19名

コア参加
ユース・学生 SDGs活動に関心のある学生など
社会構成員 SDGs施策実施中の自治体など

YouTube配信
一般参加者



主催:中部地方ESD活動支援センター(環境省EPO中部内)
協力:中部大学中部高等学術研究所、国際GISセンター 問題解決体対
象とするデジタルアース共同利用-共同研究拠点

15

中部地方ESD推進ネットワーク地域フォーラム(9/29)

ESD:探究学習と地域連携
開催日時 令和7年9月29日(月)13:00~16:30
開催方法 対面及びオンライン(ハイブリッド)
開催場所 ワインクあいち 907会議室 zoom20名参加、会場13名参加


(プログラム)
▶挨拶・趣旨説明(5分) 総野正衛氏 環境省中部地方環境事務所環境対策課長補佐
第1部 <オープニング>
▶基調講演(40分)「ESDとしての探究学習の可能性と課題」
松村智史氏 名古屋市立大学准教授
▶話題提供(15分×3題)
高校の探究学習事例①.....牛田芳代氏 名古屋市立桜台高等学校キャリアナビゲーター
高校の探究学習事例②.....立 宏氏 岐阜県立斐太高等学校教授
探究学習の地域連携事例.....田辺友也氏 NPO法人まちづくりスポットとやま代表理事
~休 息~
第2部 <オープニング>
▶地域ESD拠点参加者による活動紹介(20分)
▶交流ディスカッション(40分)
(コーディネーター)
古澤礼太氏 中部大学国際ESD・SDGsセンター長・教授、中部ESD拠点事務局長
▶総 括(10分)
加藤隆弘氏 金沢大学人間社会研究域学校教育系准教授
第3部 <クローズアップ>地域ESD拠点のみ
▶ふりかえり交流・ESD推進ネットワーク登壇者、地域ESD拠点団体による意見交換(40分)
(コーディネーター)
古澤礼太氏 中部大学国際ESD・SDGsセンター長・教授、中部ESD拠点事務局長

13

高校生、大学生グループ発表者が作成した連携図とSDGs関係図(事例)


愛知県立愛知商業高校 みつばちプロジェクト



金沢星稜大学 商店街を拠点とした持続可能なまちづくり



グループディスカッションのホワイトボード (Bチーム)



16

ESD 推進のための教育現場等の実態把握と連携強化

- SDGs の取組と ESD 実践の専門家、教育現場関係者、中小企業経営者等を対象にヒアリング（計5件）を実施し、連携強化と情報収集を行った。

ヒアリング結果の一部抜粋	
大学教授、准教授	<p>○高校の総合的な探究学習の現状について、推進状況や課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ▪ 探究学習のテーマは生徒が自ら見つけ出すことになるのだが、とするとこれが予定調和的になってしまうところがある。例えば小実験で検証が簡単で見栄えがし、わかりやすい結果が出やすいテーマを選んでしまうなどがある。 ▪ SNS でのアンケート調査などがよく行われるが、簡単に作って友達や知り合いを動員して回答をもらえば、それなりに見栄えのする結果が得られ、一見すると「らしい」探究になるが、根拠として十分かと言われればなかなか難しい。 ▪ 良くない問いとしては、すぐに答えが出てしまうもの、検証不可能なもの、これまでの知見を無視するようなもの、などがあり、テーマ設定をうまく行う必要がある。いずれにしても、問いを立てるところが最も重要かつ難しく、現場の先生方も苦慮されている。
高校教諭	<p>○ESD 推進の課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ▪ ESD 推進の課題としては、地域や企業との継続的な連携体制の構築が挙げられている。地域との協働は重要であるものの、学校単独で継続的な関係を維持することには一定の困難が伴う。 ▪ 特に地域の中小企業や自治体との協働を長期的に維持するためには、学校と地域をつなぐコーディネート機能が必要であると考えられている。また、教育活動として継続するためには、教員の異動や業務負担の問題も考慮する必要がある。 ▪ さらに、私立学校では比較的柔軟に教育活動を展開できる一方、公立学校では制度面や業務体制の制約により同様の取組を継続することが難しい場合もある。
繊維リサイクル事業者	<p>○SDGs/ESD の取組の課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ▪ 社内教育の面では、SDGs や環境に関する考え方を社内全体に浸透させていくことが課題として挙げられた。現状では社長や一部の社員の取組にとどまっており、全社的な理解には時間がかかると考えられている。 ▪ また、環境教育や見学対応などの活動には時間や人員が必要となるため、通常業務との両立が課題となっている。特に中小企業にとっては、教育活動に充てる時間やコストの確保が難しい面があるという。 ▪ さらに、繊維リサイクル業界の課題として、回収できる品目が業界団体のルールによって制約される場合があることや、大手企業による回収の影響で処理が難しい衣類が増えていることなども挙げられた。

（ほか2件／計5件のヒアリングを実施）

代表的な行事後の行動変容の把握

- EPO 中部・中部地方 ESD 活動支援センター主催イベント・会合等に企画・運営協力等した地域主体を対象に、簡易ヒアリング（計6件）を実施し、その後の地域の行動変容等について聴き取りし、イベント等実施業務による成果の把握を行った。

業務	2025年10月17-18日開催・ESD ダイアログ 2025
対象	開催に協力いただいた尾鷲市商工観光課
内容・結果	<ul style="list-style-type: none"> • 「ESD」という言葉だけでなく、実際の活動報告と対話を通じてそれぞれに「気づき」があったと思います。特に、個々の活動団体だけでは、資金的にも人力的にも厳しく、事業継続のためには行政の支援が必要不可欠であることも理解できたと思います。 • 現在の本市での取組は、市が人的・金銭的にもイニシアチブをとりながら進めている事業ですので、他の活動団体とは大きく違うのではないかと思います。各団体の自主性を尊重しつつ、単に資金援助だけでなく、持続可能な活動のための基盤づくりのために、行政と民間がどう協力し、何を支援すべきか考えるきっかけになったのではないかと思います。
業務	2025年12月6日開催・地域循環共生圏フォーラム in 富山県上市町 2025
対象	開催に協力いただいた、現地の EPO 中部・協働コーディネーター2名
内容・結果	<ul style="list-style-type: none"> • フォーラムをきっかけに、登壇者同士が連携する可能性も創出されています。柿の収穫体験イベントやフォーラムへの副町長の参加により、行政も関心をもってきているようで、今後の展開に期待が持てると考えています。 • 上市では地域課題解決ローカル SDGs への関心が高まっており、旧繁華街の空き家を活用したイベントなど、地域内の回遊性促進につながるような取組もはじまっています。そうした中で、中間支援も重要と認識していますが、資金や人材の確保が難しく、持続的な支援体制の構築には課題が残っていると言わざるをえません。おそらく、地域循環共生圏の理念を実現するには、行政や企業の本気の関与も不可欠であると考えます。

（ほか4件／計6件のヒアリングを実施）

■ 環境白書を読む会への協力

- 中部地方環境事務所が主催・企画する令和7年版環境白書を読む会の広報及び開催運営支援を行った。

⑨環境白書を読む会の開催

- 10月22日に、「環境白書を読む会」を名古屋市立大学でハイブリッド開催。会場10人、オンライン10人の計20人が参加。
- 第1部は令和7年度版白書の概説を行う一般公開オンラインセミナーとして開催し、第2部はリアル開催方式で、中部における施策を中部地方環境事務所職員が概説し、会場参加者との質疑応答を行った。



一般向けのチラシ

大学向けのチラシ

24

■ 全国ユース環境活動発表大会への参画

- 全国ユース環境活動発表大会実行委員会(環境省/独立行政法人環境再生保全機構/国連大学サステナビリティ高等研究所)が主催する「全国ユース環境活動発表大会」の中部大会の審査委員として、EPO 中部から環境カウンセラーである浅野智恵美氏を推薦した。
- 11月29日開催の中部大会にEPO 中部スタッフもオブザーバー参加し、中部大会・全国大会の結果をEPO 中部ウェブサイトで紹介した。

■ 全国・各地方とのネットワークの活用及び連携の確保・強化

- 全国及び地方 EPO・GEOC・ESD 活動支援センター等から招請のあった会議・イベント等にすべて出席した。

【参考】2025 年度業務一覧

中部環境パートナーシップオフィス運営業務
令和7年度（2025年度）業務一覧

第7期3カ年度の目標 2030年を見据え中部地方のローカル SDGs 達成に向け地域循環共生圏に資する地域環境活動の面的拡大を加速化させます。
今年度目標 地域ニーズを踏まえ統合アプローチ（CN・CE・NP）による3分野（環境・社会・経済）貢献取組に向けた地方ネットワークの強化を行います。

